



学校だより ウルムス

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

平成29年10月31日

11月号

横浜市立釜利谷南小学校

校長 鈴木 秀一

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariyaminami/>

30周年記念誌の作成

副校長 内海 司馬

10月3日PTA主催の音楽鑑賞会が開かれました。今年度は全校児童に聴いてもらいたいとのことから、授業中におこなわれました。14名の演奏者が演奏をしてくださいました。芸大出身者の弦楽合奏ということで期待をしていたのですが、期待以上の演奏でした。授業の時間を使ってということで、音楽の先生とも相談して教科書にある鑑賞曲を中心をお願いしたのですが、たとえばモーツアルトのアイネクライネナハトムジークはしっかりとした低音パートに支えられ、高音域はすばらしく歌い、また第二バイオリンやピオラが厚みをだしている演奏で、さすがモーツアルトと思わせる演奏でした。演奏時間2時間余りということで1年生には難しいかなとも思いましたが、最後までみな真剣に聴いていました。PTAの係の方のご苦勞も多かったと思いますが、ありがとうございました。



来年度の本校創立30周年にむけて、今年度中にめどをつけていきたいものの一つとして、記念誌の作成作業があります。この記念誌は、地域や学校の特徴や歴史を盛り込み、中学年を中心として授業で使っていくことを考えています。完成は来年度を予定しているため、残念ながら現在の6年生の手には渡りませんが、現在夏休み期間を使って先生方が地域をまわり調べてきたものを文にまとめているところです。記念キャラクター「ニレーナちゃん」も記念誌の各ページに入り大活躍です。

今年6月に文科省より学習指導要領解説が出されました。これは次期学習指導要領の基本方針が載せられています。改正の要点として、①資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学びの充実」②カリキュラム・マネジメントの充実③児童の発達の支援、家庭や地域との連携・協働を重視、の3点です。記念誌は次年度以降の学習を念頭においてつくっていますが、つくるにあたっては次期学習指導要領も重要な指針としています。

①については、子どもたちが主体的・対話的な学習をすすめるためには教科書だけを使っていくだけでは足りないこともあると考えます。自分たちの問題としてとらえることから学びをスタートさせていくためには地域のことを扱う学習が有効な方法であると思われます。これが発展して「総合的な学習の時間」のテーマに広がっていくことも期待しています。

②については学校独自のカリキュラムを作っていくということで、これには、地域の素材の教材化が不可欠であると考えます。

③については本校が大切にしている学校・家庭・地域で協力して子どもたちを育てていくことが不可欠です。スペシャルティーチャーとして地域の方が学習に参画したり読み聞かせボランティアとして保護者・地域の方がすすめていってくださったりするなどは時代の先取りともいえることでしょう。

一方、学校の職員構成を考えると長年釜南小に勤務してきた職員ばかりではなく、入れ替わりもあり新しい職員も多くいます。そこでこの地域のことをまとめた副読本(記念誌)が必要となってきます。前回の副読本は創立10周年のときのものでした。今回のものも10年は使えることを考えて作成しています。

副読本の中には、永島農園さんの「しいたけづくり」や東光禅寺の住職さんからお聞きした白山道を中心とした地域の歴史のお話など釜南ならではのものがたくさんつまっています。この副読本を作る際、先生方をお願いしたのは、「学習で調べるからくわしいことは副読本に載せないのではなくどんどん載せていきましょう。」ということです。子どもたちは、たとえば「しいたけづくり」の学習をするときにどんなつくりかたをしていて、いつ・どんな作業をしているか。などを一から調べて学習するとそれだけで学習の時間が費やされていきます。それもそれで大切なことですが、副読本を読むとわかることはどんどん教室の共通の知識とすることで、これを土台に働いている人の思いや努力、大変さにせまっていくことができると考えます。この副読本を活用することによって本校の学習がより「主体的・対話的で深い学び」に近づいていくことを願っています。

文末になりましたが地域の方々には副読本をつくるに際して資料集めなどで貴重な時間を割いていただきありがとうございました。この副読本を携え子どもたちが目を輝かせて地域を歩き回ることが願っています。